

人文研紀要

第75号～第77号(2013年)

◆第75号—2013年(2013年10月発行 A5版334頁)

通時的英語学研究のためのオンライン版コーパスアナライザー	新井 洋一
日本語動詞用法辞典について(4) —複合動詞一覧の試み—	野田 時寛
『ヘブリディーズ諸島旅日記』におけるボズウェルとジョンソンの英語	市川 泰男
アメリカ日系移民二世の時代と言語問題 —『北米年鑑』1936年版の記録から—	村上 和賀子
Frequency and Other Effects on Diatonic Stress Shift	Ryuichi HOTTA
日本人ドイツ語学習者による ドイツ語テキストの読み —重要度判定課題と要約課題から観察できる情報の理解と再構築に関する一考察—	西出 佳詩子
縦断的調査への参加者の特徴についての検討	都筑 学
『アダムナーン法』の公布目的の再検討	木村 晶子
『歴史』と『征服』におけるハーリド・アルカスリーと第三次内乱	松本 隆志
13世紀前半「教皇領」内における都市ローマ出身のポデスタ	飛鳥馬 一峰
連続変身の説話の系譜 —花咲翁を中心として—	沖田 瑞穂
消極的な求婚者たち — <i>Jarlmanns saga ok Hermanns</i> と <i>Saga af Tristram ok Ísodd</i> —	林 邦彦

◆第76号—2013年(2013年10月発行 A5版314頁)

エミリア・ラニア『ユダヤ人の王, 神, 万歳』における女たちの視力 —「知」の所有をめぐる—	安齋 恵子
John Clareの牧歌技法 —短詩類と『羊飼いの暦』—	森松 健介
17世紀フランスに蘇ったテレンティウスの『宦官』	榎本 恵子
ルソーにおける自然と庭園 —ロベール理解のために—	永見 文雄
『ピグマリオン』から考察するルソーの共同体論の変遷	前之園 春奈
夜のパサージュ —ヴァルター・ベンヤミンと『白痴』—	岩本 剛
救済者としての農民 —ユダヤ人を救った人々(6)—	平山 令二
最後の10マルク —トマス・ウルフ「汝らに告ぐることあり」—	岡本 正明
<i>Extremely Loud and Incredibly Close</i> におけるユダヤ性と普遍性	近藤 まりあ
『ハムレット』とともに『十二夜』を読む	倉田 賢一
The Eyes of Democracy: Stefan Lorant and <i>Picture Post</i>	Yumiko FUKUNISHI
“Robert Musil und der genius loci” —Nachträge (2)—	Nanao HAYASAKA
Tragedy of Displacement in William Faulkner's <i>Absalom, Absalom!</i>	Hitoshi YOKOMIZO

◆第77号—2013年(2013年10月発行 A5版423頁

「セクストゥス」という形象	橋本 由美子
日本僧笑雲の入明記を通じてみた東アジアの疎通と交流	川越 泰博
蘇童「1934年の逃亡」における語り手の働き	遠藤 佳代子
中華人民共和国の言語法「広東省国家通用言語文字規定」について —漢語方言の使用規制に関する規定を中心に—	小田 格
漢詩人としての江木衷 —蘇軾「聚星堂雪」の次韻詩を中心に—	池澤 滋子
杜甫の「竹林七賢」観	河野 哲宏
明朝档案を通じて見た明末中朝境界	荷見 守義
デュ・モーリエとヘンリー・ジェイムズ —デイヴィッド・ロッジ『作者だ、作者』の意味するもの—	深澤 俊
ゲーテの山岳紀行	須磨 一彦
カントとハイデガー —良心をめぐる—	須田 朗
心身問題を蒸し返す	岡山 敬二
穢れと供物の相対性 —釈奠と神祇祭祀の差異から論じる成文化当初の穢れ観念—	尾留川 方孝
大地と自然 —「自然の存在学のために」ファン・ゴッホとハイデガー—	小嶋 洋介